

# 第55回 (平成24年度第2回) 番組審議会議事録

開催日時：平成24年10月4日(月) 午後1時30分～2時45分

会 場：西宮市立勤労会館 第1会議室

## 1. 出席者の状況

委員総数：7名

出席委員：6名

欠席委員：1名

### 放送事業者側出席者

代表取締役社長：1名

制作課長：1名

総務部：1名

西宮市広報課：1名

## 2. 議事に入るまでの経過

事務局より、審議会に入る旨の発言の後、委員長に議事進行を依頼。

議長は第55回番組審議会を開催する旨を述べた後、社長に放送事業者側の出席者の紹介を求めた。

社長は委員の出席に謝辞を述べた後、会社側より出席する制作課長と総務部員、及び広報課からの出席者を紹介し、各々挨拶をした。

議長は本日の出席状況の報告を事務局に求めた。事務局は本日の委員の出席状況として、委員総数7名中6名が出席しており、過半数以上の出席により審議会は有効に成立している旨の報告があった。

## 3. 議題

### (1) 番組の審議

議長「では議事次第に従って議題を進めていきたい、議題の1番、番組紹介に移りたい。本日は「市民俳句」が上がっているが、この説明とテープによる紹介となる」と議題を上程し、事務局に説明を求めた。

〔事務局による番組内容の説明〕

## 事務局

「市民俳句」は以前にも番組審議会で取り上げて頂いた事がある。開局日から始まった番組で、当初は初代社長が懇意だった事もあり、西宮俳句協会の当時の会長である阪口昌弘先生にお越し頂き、「ラジオで俳句の番組を」という事で始めた。週1回の生放送から始まり、途中から収録番組に変わったり、好評を得ていたので当日に再放送をするに至った。しかし昨年阪口先生がお年を召され体力的に続けられない状態となった為、惜しまれつつ5月に終了した。俳句協会とのつながりよりも阪口先生ご本人とのつながりによって始まった番組であったので、俳句協会から後任者を決めることなく終了した。しかし秋口に入って現俳句協会会長の野々口先生と阪口先生が話し合われ、俳句協会として今後も協力していきたいとの申し出が阪口先生を通じて届いた。

このようないきさつがあり、番組復活に向けて昨年末より野々口先生と打ち合わせを重ね、今年の5月から再開した。

木曜日の11時からという形態は以前からと全く同じだが、今回スタートしたものは生ワイド番組の中のひと枠。生放送なので再放送はしていない。

毎回季題を三つずつが先生から出される。初心者向けに分かりやすい季題が出され、それに基づいて投句して頂く。それ以外にもたくさん季題がある事は俳句に慣れている方はご存知なので、他の季題でも結構だという事になってはいるが、皆さんは出された季題に則して出される。一人三句までで、葉書・FAX等で毎週投句される。二週分の実際の投句の葉書やFAXを持参したので、参考にご覧頂きたい。(委員に回覧)

「俳句は文字の文化」であるのでラジオの声では伝わらない事が多いかもしれないが、あくまでラジオ上で親しんで頂くというのが阪口先生の頃から変わらぬ番組のコンセプトとなっている。従って、俳句を全くしたことがなく句会などには参加出来ないがラジオで聞いて自分が投句したら読まれるかもしれないという方々向けに、季節の話題や季題の説明を分かりやすく一般的な知識として喋って頂いている。

### 〔カセットテープによる番組紹介〕(平成24年9月20日木曜日放送分)

番組の途中で紹介を終了した為、事務局は番組の構成・進行についての補足説明を行った。  
(この後、曲を挟んで次週の兼題の発表と今回の兼題で先生が詠まれた句を発表して終わる)

### 〔番組に関する意見交換〕

#### 議長

番組を聞いて頂いたが、これについて質疑応答に入る事にする。お感じになった事を忌憚のないご意見のご発言をお願いしたい。先ずこれは30分番組か。構成は以前からこうか。

事務局

阪口先生がされていた頃から同じ構成で、今回もそうだが野口先生は最初の挨拶とご指導を長めにされているので、曲まで 20 分ちょっと超えるくらいになっている。基本的には選句をしてから曲を挟んで後に続く。お気付きかもしれないが、「チェックチェック」という添削の時は詠まれた方のお名前は申し上げていない。添削される方は自分が詠んだ句なのでそれと分かるので、名前は言わない事になっている。

委員

添削のコーナーは面白い。一文字であれだけ変わるとは。

事務局

ラジオなのでかなり丁寧に言っている。

委員

最初に一句先生が講釈を仰った後、曲を挟んだ後も最後にもう一度今日の句はどんなものだったかを振り返って言って頂けるといい。

委員

一度中止されてたという事だが、再開出来てよかったと思う。

事務局

中止した時は、句会に行かれずラジオのこの番組だけで楽しんでらっしゃる方々から残念だというお声を頂いた。再開が決まった時、以前投句を頂いていた方々に手紙を差し上げた。お計らいで始まりますとお知らせすると全員から投句が返ってきた。「これからもよろしくお願ひします」という野々口先生へのメッセージ付きで、初回はメッセージのみも含めて皆さんから頂いた。

委員

嬉しいと思う。句会に行き宿題を頂いて発表してもあまり仰らない事に比べると、こんなに詳しく添削されたりお話を聞けたら嬉しい。

事務局

句会に行き楽しんでらっしゃる方はそちらで発表されるのでこちらには投句はしないけれど聞いてらっしゃる方が結構いらっしゃると聞いている。

委員

最後の方で次の季題を三つ発表する部分があるとのことだが、今日聞いた放送で最初に季語について詳しく説明されていたように、次回の季語についても詳しく説明するのか。

事務局

例えば「野分け」という季題が分からない方がいらっしゃるかもしれないので、簡単に説明はする。

議長

「俳句協会」というのは西宮のなのか、兵庫県のなのか。

事務局

西宮俳句協会です。

議 長

協会として色紙に書いたようなものの展示会をするというような発表の場はあるのか。

事務局

句会は定期的に神社会館で、正月の十日戎の時には必ず新年の初句会を行い、他に年何回か例句会のような俳句会を開く。他に吟行など、俳句協会として行っている。

他には公民館などで俳句講座があり、そこへ講師として行かれることはある。

議 長

ということは、俳句協会の他の活動とこの放送が連携して、事業の一つとして組み込まれているという事ではない？

事務局

ではなくて、協会の会長の野々口先生にラジオに出て頂いているという事。ただ、俳句協会としても会長がラジオに出て俳句を広めさせてもらっているのは有難いと思っていると聞いている。

委 員

ここで投句されていらっしゃる方は相当経験されていらっしゃるのか。

事務局

他の句会で投句されている方もいらっしゃるし、私が存じている限りではお一人「くねんぼの会」の方がいらっしゃる。以前からずっと俳句をやっていらっしゃる方、夜に俳句会がないから時間が合わないので昼に放送しているこの番組に毎回3句ずつ投句して下さる方、あるいは本当の初心者の方であったり、いろいろいらっしゃる。

御病気を患っていらっしゃる方がおそらく入院などされて投句が途絶えたり、また復活したりという事もあった。実力面も含めるといろんな方がいらっしゃる。

委 員

どのくらい投句があるのか。

事務局

最低10人から多くて20人くらい。聞いているだけという方は相当いらっしゃる。

議 長

公共放送だから西宮俳句協会の先生が担当しますという事をきっちり仰った方がいいと思う。

委 員

今日の放送で最後の方がよく聞こえなかったが、市民ギャラリー云々と仰っていたように聞こえたが、市民ギャラリーに作品を出されるのか。

事務局

野々口先生は俳句協会の会長であるが、俳画もされていてその俳画展が市民ギャラリーで開かれるというお知らせだった。

委 員

入選作品をギャラリーに出してもらえるのかと思った。

事務局

俳句協会の話という、この番組への投句のものではないが、毎年5月に夙川のさくらまつりの時に協会の会員の短冊が飾られるので見に来て下さいと、協会の事業を宣伝されたりもする。そうして俳句に触れて行ってほしいと先生はおっしゃっている。

議長

若い学生さんなどはどのような評価をするだろうか。

委員

聴取者はどれくらいの年齢層か？

事務局

かなり中高年以上の方だと思う。

委員

このタイトルでは学生がチャンネルを合わせようとは思わないだろう。興味、関心は今の学生はまだ向かないかもしれない。しかし、番組自体の感想としては、俳句は文字の文化だと最初に仰っていたが、非常に丁寧に解説をされるので、詠まれた句の情景が目につかび分かりやすいという印象を受けた。

添削コーナーの「チェックチェック」があったが、レベルもいろいろだという事なので、例えばこれから始める人向けにもっとやさしい解説で「始める人はこれだけは守りましょう」などという入門者コーナーなどがあってもいいのではないか。学生のような若い世代でもこうした趣味が持てるのだと感じるような、初心者の人への解説のコーナーがあってもいいと思った。

委員

「報告になってはいけない」とか「季語の説明はいらぬ」「季が重なってはいけない」という説明は初心者向けだなあと思った。上級者ならこのような事はご存じだろう。

委員

積み重ねをしていけば分かるようになるのだろうが、番組の内容が区切られることなく進行していくのでわかりにくい。例えば語学のラジオ講座などは番組内が細かくコーナーに分けられている。細かくコーナーが分けられているので番組内のどの時間帯に聞けば何が聞けるか決まっておき、聞きたい部分を聞き逃すことが少ない。特に若い世代は、そういった番組の構成に慣れている。上級者だけでなく初級者、または多世代に視聴者の幅を広げるならば、コーナーを分けるなど番組の構成を工夫してもよいのではないか。

委員

普段あまり触れない文化だ。聞かれているのは時間帯からしても高齢の方が多いのだろうと思った。番組を面白くするのであれば、お孫さんと一緒に俳句を詠むというようなコーナーを作ったらどうか。そうすればお孫さんも一緒に聞いておじいさんと一緒に、おばあさんと一緒にという楽しみが増えると思う。

もう少しメリハリを付けた方がいいのでは。例えば先生が俳句を詠む前に「ヨオー、ポン！」というようなものが解説の前にあるとメリハリが付くと思うので、そうした工夫は必要ではないか。

議 長

賛成です。俳句というのは大変穏やかなところで季節の移り変わりを感じて小さな所に視点を向けて感じ取るという、心の優しい行為なのでそれはこれでいいと思うが、若い人へのアピールという点ではもう少し工夫が要るだろうと第三者としては思う。

似たものに川柳があるが、「西宮市民はこういう文化の楽しみ方をしています」という事を示す為に、タイプの違った俳句と川柳の番組を同じ時間に並べてみるのはどうか。タイトルは子供にも分かりやすいものにしたらいだろう。文化の広さ、深さ、層の厚さなどを放送でも示せるのではないか。

今、大学では俳句を教える時間はないそうだが。部活でもないのでは？

委 員

俳句同好会などというのはあまり聞いた事はない。

議 長

だから、そういう所にアピールするようにしたらいいと思う。せっかく番組をやるのだから、学生が俳句は年寄りのものだと思ってしまうようではいけない。

社 長

いいアドバイスを頂いた。例えば、俳句協会のイベントに我々も行って、七夕の前後だったら短冊を用意して子供から大人まで書いてもらい、会長さんにそこでグランプリを選んでもらい、それを番組で発表するなどの連携が出来るようになるといい。

開局当時の番組で、私がパーソナリティーをつとめている時間に阪口先生が来られる時があり、パーソナリティーもその場で即興で俳句を作るという事があった。季語が一つあってお題があれば誰でも出来るのだと思ってもらえ、主婦の方からも気さくに句を送って来られた。当時20代から30代の方々からもFAXが送られてきていた。

文化として突き詰めたら深いものなのだろうが、先程の提案のように効果音などを入れて学生や子供なども出来る、主におじいちゃんが聞いているのだが一緒に聞いている孫にも勧めて参加してもらえるように出来る余地がある。ディレクターと会長とで相談して、より楽しみな番組にしたい。

委 員

聴取者を呼んでみてもいいのでは？

社 長

それか、公開のようにイベントで録音するなど考えられる。

議 長

人によって詠み方も違うだろうから。

委 員

面白いキャラクターの方もいるだろう。

社 長

定番の形、決まった時間に決まったコーナーがあるというようにパターン化すると同時に月に一度はイレギュラーなものを入れる、例えば公開録音に行ったり素人のゲストを呼んで会長さんがビギナーの方にも解説をするなど、作り手側が一つ手間を加える事で楽しめると思う。

委員

公民館でも講座をやっているが、自信がないのでそこへ入って行く勇気がなかった。

社長

我々パーソナリティーも最初は俳句を作るのは敷居が高いイメージがあった。けれどもしょうもない句を作っても怒られることなく阪口先生が「面白いねえ」と言って下さったところからリスナーが乗ってくれたというようなイメージが記憶にある。敷居の高さ、文化的に固いイメージを取っ払って「こんなのも出来るんだ」というコーナーもあり、従来のようなコーナーもありと、コーナー分けをすると聞きやすいかもしれない。

委員

上手な方と同じではなく初心者だけを取り上げて下さったらいいが、同じだとやはりやりにくいと思う。

社長

年配の方が長けているとは限らないので、何歳からでも始められるのが俳句なので、初心者向けに噛み砕くのと、締めるところはギュッと締めるというようにメリハリをつけると誰でも参加しやすくなるかもしれない。構成を練ってみたい。

委員

これを楽しみにしている方もいるだろう。市民全員が聞いている訳ではないから誰にでも満遍なくにとすると逆に今聞いている層の楽しみを奪う事になるかもしれない。この時間帯は高齢者向けにして、対象を別にしたら時間帯を別にして、例えば川柳の時間にしたら若い人や世相を皮肉った人など、西宮の事なども何でも詠んでくるだろう。

社長

私もディレクターも開局から携わっているので、ジャズにしても俳句にしてもリスナーが続いている番組や曲は大事にしている。崩すのは簡単だが、今までのリスナーが離れないように考えている。俳句でも月に一回はイレギュラーに誰でも参加OKというようなものを俳句に興味をなさそうな方々の時間帯に流したりなどというのもありかと思う。番組の構成に関わるので簡単には出来ないが、今までのリスナーも大切にしながら考えていきたい。

サイマル放送が10月1日から無事始まっており、全国・世界中で聞けるようになったので、学校に俳句同好会などがあつたらこういう方たちにもキャンパスで聞いて頂ける。このコーナーにだけに限らずいろいろな視点を広げていかなければならないと思う。

委員

それはさくらFMで検索したら聞けるのか。

社長

さくらFMのホームページからもサイマルラジオのホームページに行けるようになっている。是非聞いてほしい。

議長

他にご意見はないか。さくらFMで流している曲は完全に若い人向けだと思う。自分が聞いている時がたまたまそうなのか。

委員

そう思う。健康番組があるがあのよう番組は聞いてよくわかるが、音楽は本当に聞いても分からない。

議長

これについては全体を構成しなおしてはどうか。何か考えてみてほしい。厳しい事を言ったが、さくらFMがよくなってほしいと思う。

エフエム神戸はすごく小さい所で一生懸命やっているそうだが。

社長

うちは恵まれている方だと思う。

委員

ここは機材もたくさんあり事務所もあり恵まれているのだから頑張ってもらいたい。

議長は、委員にその他特にご意見がない旨を確認し、事務局に伝達事項を求めた。事務局は次回の審議会の日程に関して日時変更をしたいため再調整のために再度調査票をご提出頂き、後日ご連絡致したい旨を伝えた。

議長は終了予定時間になったので本日の審議会を終了し閉会する旨を述べ、社長に挨拶を要請。

社長は審議会でご意見を頂いた事への謝意を述べ、閉会にあたって挨拶を行った。

議長は、午後2時50分に審議会閉会を宣した。

議事の経過を明確にするため、議事録を作成し、委員長及び出席委員の記名押印をする。

平成24年10月4日

西宮コミュニティ放送株式会社